

### 議題 3 設備保全の状況

1. 2022 年度長期保全計画(事業終了準備期間を含む計画)
2. 2021 年度設備保全実施項目と 2022 年度設備保全予定項目

## 1. 2022 年度 東京 PCB 処理事業所 長期保全計画(事業終了準備期間を含む計画)

### 1. 長期保全計画の策定に対する考え方

#### (1)2021 年度までの保全の考え方

2021 年度までは、高い操業を安定的に維持するために予防保全を主体とし、年に 1 回の定期点検における時間基準保全※<sup>1</sup> (TBM) 及び状態基準保全※<sup>2</sup> (CBM) を柱として、可能な限り操業中の設備不具合による停止を回避する方針で実施してきた。

※1 時間基準保全 (TBM ; Time Based Maintenance)

ある一定周期で点検、整備、補修、部品交換、更新等を行う保全

※2 状態基準保全 (CBM ; Condition Based Maintenance)

継続して実施する計測・監視などにより設備の劣化状態を把握・予測したうえで整備、部品交換、修理、更新等を行う保全



図-1 長期保全計画のPDCAサイクル

#### (2)2022 年度の保全計画の考え方

計画的処理完了期限となる 2022 年度の処理計画では、変圧器では 15 台、コンデンサーでは 1,511 台であり、2022 年度の操業は 2021 年度の 3 分の 1 以下である。

設備の保全にあたっては、今後も時間基準保全及び状態基準保全をベースとした対応を継続する。2022 年度の保全計画では、定期点検整備を中心に以下の設備に対して従来通りの対応とする。

①水熱分解設備、洗浄設備及び加熱設備等の変圧器、コンデンサー、廃粉末発生炭及び運転廃棄物の処理に使用する主要処理設備

②換気空調設備及びユーティリティー設備等の処理の有無に係わらず施設の維持に必要で、かつ解体撤去にも使用する設備

以上の設備以外については、これまでの施設の維持保全の経験に基づく処理量ベースでの時間基準保全や状態基準保全での対応から、2022 年度以降の今後の処理に対しては十分な機能維持が図れるものと考えている。

### (3)事業終了準備期間(2023～2025 年度)の保全計画の考え方

事業終了準備期間となる 2023 から 2025 年度については、掘り起こし調査により新規発見された変圧器やコンデンサー等は国の方針に従い、一定期間受け入れて処理をすることになる。

上記の期間における設備保全に対しても時間基準保全及び状態基準保全をベースとした対応を継続する。

ほとんどの処理設備については、この期間の予想処理量に対して処理量ベースでの時間基準保全から考えて十分な機能維持の継続は可能と判断される。したがって、年 1 回の定期点検整備は、水熱分解設備や電気設備等の法定対象設備に対して実施するものとする。

また、処理の有無に係わらず施設の維持に必要で、かつ解体撤去にも使用する設備である換気空調設備及びユーティリティー設備、建屋等についても定期点検整備の対象とする。

なお、処理の終了後にはいずれ施設の解体撤去が行われることになるが、この際の状況も一定程度想定して対応に反映させているが、詳細は施設の解体撤去に関する実施計画書の策定等で明確にされ、それに伴って上記の定期点検整備計画も変更される。

東京PCB処理事業所「2021年度実施」及び「2022年度予定」の主な設備保全項目

